

## 令和2年度 第2回香川県立図書館協議会

日 時：令和3年3月26日（金） 13:30～15:00

場 所：香川県立図書館 研修室

出席者：池田委員、池西委員、猪原委員、香川委員、川根委員  
清國委員、山本委員

欠席者：梅澤委員、笠井委員、長尾委員

傍聴席：1名

### 1. 開会

### 2. 館長挨拶 清國議長挨拶

### 3. 議題

#### (1) 令和3年度予算・事業計画（案）について

- ・事務局より令和3年度予算・事業計画（案）について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記のとおり

委 員：4ページの団体貸出について伺う。団体貸出は30冊を1か月となっているが、その間に個人のリクエストがあったら、ボランティア団体に連絡して引き上げるのか。個人のリクエストが重なった場合どう対処しているのか。

事務局：それは、貸出中の本に予約が入ったという形になる。返却期限は決まっているので、長くて1か月の、返却期限待ちの割当てになる。

委 員：木守文庫について、今年図書館の大会が無くて、木守文庫をアピール出来ていなかった。ある図書館指導員に聞くと「木守文庫とは何ですか」と、返ってきた。結構アピールしていたつもりだったが、これからはお一層図書館指導員の方にもアピールしていかないと、せっかく用意して下さったのが勿体ない。次の機会に何らかの形でお伝えしたい。

委 員：研修を行っているいくつかの教育センターから話を聞いたが、ちょうど去年の

4、5、6月あたり、教員の初任者研修が集合して出来なかったが、子供も学校に居ないし、研修も出来ないということで、今回改めて研修の大切さがよくわかったという学校現場の声であった。図書館職員さんには、コロナの中、重要性を感じたとか、こういった情報に関心が高まっているとかいった声があるか。

事務局：令和2年度の初任者研修は通常より1か月遅らし、期間を3日間から2日間に短縮したほか、装備実習などは取止めて、感染症対策を講じた上で開催した。

また、情報交換や事例発表を目的に実務担当者会を年2回開催したが、参加者から来年以降も続けてもらいたいという声が強かった。県内の図書館も小規模で相談相手になる職員がいないところもあるので、県内の図書館職員が一堂に会する機会を設けるのも重要だと感じた。

委員：普段業務に追われているとわからなかったが、今回色々大事なのだと改めて感じたのはプラスに考え、再度のご配慮をお願いします。

委員：7ページを見ると入館者数が減っている。

私は県の芸術祭の委員をやっているが、このコロナを特殊な状況だから、なんとか乗り切ろうという捉え方も出来るが、今はコロナだけ別の感染症もあるのであって、そういう意味では、ここで芸術も変わっていくのではとの議論もある。

図書館は、入館者がどれだけ入ったか、どれだけ増やせるかだけでなく、図書館が変わっていく計画を何か考えているのか。

事務局：今入館者数を一つの目安として色々な指標に使っているが、人口が減少している現状の中、今回のコロナのこともあり、本当に運営の良し悪し、住民の皆様の満足度をこれから、じっくり考えていかないといけないと考えている。また図書館が住民の皆様に提供するサービスそのものについても、これから質が段々と変わっていくのではないかと。来ていただいて本を手にとって頂くだけでなく、他の方法で図書館のノウハウとかを利用者の方に提供できる方法を考えていく。時間もお金もかかるが、じっくりと考えていきたいと思う。

委員：なかなか簡単には答えは出ないと思う。是非6ページの資料の郵送貸出、インターネットを利用して貸出してもらるか、そういう事も広げていく。急には難しいとは思いますが、何とかしのいでいく、これを機会に変わっていく、そういう風を考えていくようお願いする。

委員：レファレンスサービスの業務をされる方は常時何人いるのか。

事務局：参考調査の者が3人、レファレンスの窓口で受け付けるのは司書全員が当番制でやっている。他にメールとか文書で来るのは、参考調査の者3人が対応する。

委員：コロナの中でレファレンス業務が忙しくなるだろうが、3人の方がいるのならよい。

(2) 令和2年度運営状況について

- ・事務局より令和2年度運営状況について説明
- ・承認
- ・質疑については、下記のとおり

委員：令和2年度運営状況についてみるとなかなか厳しい。コロナ禍で巣ごもり需要があるが、貸出が一気に伸びたというわけでもないようだ。

委員：インターネット検索件数、貸出予約冊数は増えているが、貸出件数は減っている。

10ページ10月4日開催の感染症予防の講座はどの段階で決まったのか。何でこんな質問をするかという、今度のオリンピックのことについて展示するかしないかはわからないが、ただオリンピックがあるかどうか、どこまでやれるかわからない。コロナがあり時代に柔軟に対応しないと、先が見えない。是非お願いしたいのは柔軟に対応した展示を入れてもらいたい。つまり年度当初からこれをやると決めてしまわず、ある程度時代の状況を見ながらお願いしたい。

事務局：時宜に応じたテーマで資料の展示を行うイベント関連本展示は、展示のテーマや展示の期間をフレキシブルに対応している。令和3年度にオリンピックが開催されれば、メダリストの本を集めた展示の計画もある。実際のところ昨年度も計画していたが、オリンピックが延期になったことから開催を見送り、別のテーマのものにした。

このイベント関連本展示は、一つ開催中であっても、ノーベル賞受賞者が出たとか、有名作家が亡くなったとか、そうしたトピックがあれば、並行してミニ展示をするなど柔軟に対応している。

委員：展示するのであれば、1年間通して児童から高齢者の方まで話題性のある展示の取り組みをすれば良いのではないかと。赤ちゃんからお年寄りまで年齢層別の展示の仕方も良いのではないかと。

事務局：児童資料室でも、毎月「今月の本」を時季に合わせて展示している。今年度は学校が急にお休みになって、「お家で発見、お家で体験、お家で楽しめる本」などを急遽閲覧室に並べてみた。

委員：コーナーがあるということか。

事務局：書架に「今月の本」があり、閲覧席をのけてテーブルに本を置いてみたり、本を運ぶ小さいブックトラックに1台分乗せて書架の隣に置いてみたりとかしている。

委員：7ページで、登録者数は開館以来との説明であったと思うが？

事務局：開館以来の累計である。令和2年度の新規登録者数は別で2,545名で、前年度より減っている。

委員：貸出冊数が減るなかで登録者数が増えたのなら、巣ごもり生活というものが図書館には大きなチャンスになると思ったが違った。

委員：令和2年度はどうしても動きが止まる現象は仕方がない。人口減少もそうである。

そこで、成果の指標、評価の指標を、今後どのように考えていくのか。新しい指標を見出していくのか。ここだけで、香川県独自で考えるのか、全国図書館協議会として考えるのか。

ICT化が進んで、逆戻りはないだろうと考えると、その発信の仕方は必要なかと思う。

私の居る研修組織は、10分か20分ぐらいの動画を作ってYouTubeで流しており、その視聴者数は非常に増えている。令和元年と令和2年を比べると2倍、去年の上半期は3倍、視聴者数が増えた。研修は教員しか見ないのだが、それでもそういう状況をみれば何か考えられる。短い動画をピンポイントで、例えば、教員から質問が頻繁にくるような内容を対談でもしながら10分程度のものをどんどん積み重ねていけば、お役に立てるのではないかと。あるいはメールマガジンを出しているが、メールマガジンだと文字情報であるのを、自動で読み上げるソフ

トでMP3という形式で保存すればCDに焼き付けて学校の先生に車通勤中に流してもらいなどすれば、最新の情報がいつでもCDから流れてきて、お役に立てるのではないかなど、色々と、ありとあらゆる手段を用いて教員の研修の為に何か出来ないか考えているところである。

お金があれば出来ることがたくさんあるのかもしれないが、今お金が無いので、我々も、もがき苦しみながら出来ることからやりだすよう進めており、新しい知恵を出し合ってやっていかなければいけないと思っている。

電子図書館に切り替われば別だが、現状ではなかなか難しく、図書館に足を運んで頂かないと始まらない、アウトリーチで届けるとするのは難しいとは思いますが、新しい発想の取り組みも必要だと思う。

何かそういう新しい境地を開拓しようというような、実現性は別にして、発想しているものがあるか。

事務局：まず図書館としてどういったことができるか、探っていないといけないということで、我々職員の勉強会で、電子書籍について流通業者の方に講師に来て頂いて、研修を受けた。電子書籍にだいたいどのくらい経費がかかるのか、導入初期にどのくらいかかるか、その後どういった経費がかかるのか、普及状態はどうか、どういった本が電子書籍化されているか、通常の個人向けと図書館向けはどう違うのかなど、仕組みを勉強させて頂いた。

また、インターネットで見て図書館に本があるとわかってでもコロナで取りに行けないので、宅配便で送って欲しいという要望がこれから出てくるかもわからないので、そういったことを考えていた運送業者の提案を聞いて、こちらからも、年間の貸出冊数とか利用状況を示して、宅配貸出をやるとしたらどういった仕組みにすべきか、経費がどのくらい必要か、相互に勉強させて頂いたところである。

今後も図書館協会を通じて、各市町図書館に伝えていたり、勉強会を開いたりして、今後に向けて準備をしていこうと考えている。

委員：県立図書館に登録している方は地域としてはどのあたりが多いのか。

事務局：高松市が多い。近隣は三木町、高松市周辺の方が多い。相互貸借の制度があるので遠方の方は、近隣の町立、市立図書館をご利用頂ける。

委員：このような立派な図書館があってもどうしても地理的なものがあるって、遠方からは来れぬので地元で借りることになる。

委員：私も今図書館が変わっていくところにいると感じている。コロナがいつ収まっ  
ていくのか見えない中での業務は本当に大変だと思う。

去年は職場体験的な催しが中止になっているが、私の東かがわ市でもやはり  
中学生が企業に行くのは中止になったが、逆に企業から学校の体育館に来ても  
らって、大学生の就職活動のサンメッセでやっているような催しができた。子供  
たちには、働く人達の話を知りたい、図書館のことを、もっと知りたいという気  
持ちは、小学生や中学生にもあると思うので、逆に学校へ行って、そういうこと  
も出来るのではないかな。

また去年の図書館の行事の中で、すごく新しい内容の展示が多い。その中に  
SDGs など、最近毎日耳にするようになったものもあり、自分も興味があったが  
来られなかったので、折角のすごくいい取り組みがたくさんあったので、また今  
年もやっていいのではないかなと思う。去年ここでやったので今年はもういいか  
なというのではなく、今年も、展示という形とは違うスタイルでも、図書館の中  
のどこかで、赤ちゃんから高齢者まで利用される施設なので、いろいろなジャン  
ルのものを、更にバージョンアップして、また実施していただきたいという個人  
的な思いもある。

委員：毎年同じものをしてはならないという制約はあるのか。

事務局：そのような制約はない。イベントの度に来場者アンケートをとって次の企画のテ  
ーマの検討に反映しており、必ずしも1回取り上げたら次は無し、ということでは  
ない。

委員：私が勤務している公民館も3月20日過ぎから5月の末まで臨時休館で、本当に、  
利用者が来たくても来れない状況になり、学校も休みになって、子供達、特に入学  
した1年生には大変なことだと感じていた。今日、皆さんのいろいろ苦労されてい  
るお話を伺って自分達のことに使えたらいいと勉強させていただいているところ  
で、これからはコロナと一緒に色々な活動をしていかないといけないので、色々な  
方法を教えてもらいたい。

地元のお年寄りが月1回土曜日に来て読み聞かせをしているが、みんな来たい  
がなかなか来られず、令和2年度は7月からやっと開始しても良いということに  
なったのだが、必ずマスクをして、検温して、公民館のどこかしこに消毒液を置い  
ているような状況のもとで、どうやったら楽しくできるか、一つでもその方法を教  
えていただければ嬉しい。

委員：私も図書館はコロナになってすごく変わった感じがしている。以前は、子供達

の声が少し聞こえて、お母さん達とニコニコして利用していたが、今は、たぶん職員の方も感じると思うが、何か静かにしなければいけない、話してはいけない、くしゃみ一つしてもいけないという、そういう図書館になってきて、以前と様変わりした。他の図書館でもくしゃみ一つしたら睨まれる、カウンターに消毒液があって、以前の図書館の和やかな雰囲気、お母さんが手を繋いで子供がちょっと走ったりとか、声掛けも少し小さな声でとか、全然そういう状況ではなくなって、黙って本を借りている。

本当にコロナになって図書館はすごく変わったと思うが、県立図書館の雰囲気はどうか。それは感じないか。

事務局：閲覧室は一般資料の部屋と児童資料の部屋は少し離れているので、一般資料の方は大人の方が利用されるので、従来からどちらかという静かな環境で、児童資料の方は、子供達がたくさん来る時間帯は、賑やかだが、利用者そのものが今年は減ったので、以前より少し寂しい感じはする。

委員：図書館によっては、すごく様変わりしたようで、もとより、会話してはいけないとはいえ、子供達が駆けていて、ちょっと、ちょっとの声掛けもできないというところがあるようだ。

委員：やはり子供さん、児童コーナーでは、マスクしていただいて、熱がないか測って、消毒して、かつ間を空けて座ってくださいというのが前提で、お話し会をさせて頂いているので、どうしても、ワーと子供達が寄ってくる光景はなくなり、そういう意味では影響がでている。

委員：前の図書館の雰囲気がやっぱり良い。仕方ないがコロナで図書館が変わって行くのをすごく感じる。

委員：子供に、読み聞かせを、まさかネット越しに、画面越しにするというのはいかななものか。

委員：フェイスシールドをすると子どもの視線が目の前にある大きな異物のシールドの枠にあって、本が全然見えぬようだ。

### (3) 図書館評価について

- ・事務局より図書館評価について説明
- ・承認

・質疑応答は下記のとおり

委員：数値目標を設定するのは、設定せざるを得ないから設定しているという状況なので、致し方ないと思うが、このような状況下において、数値が達成出来たか出来なかったかということに、どれだけの意味があるのかということと思う。ABC という評価を書かないといけないけれども、その後の欄のところで、例えば、この状況を改善しようとする為に、こういう取り組みを行ったというのが、そこに出ていて、これは効果があったから○とか、これはやってみただけ効果がなかったから△とか、取り組みの質的な部分が見えるようなものにしていただいた方がよいと思う。何かABC 評価を書かれると、「C、何をやってたんだ」ということ、もうそこしか思い浮かばなくなる。もっと質的には、たぶん知恵を出して取り組んでおられると思うが、それが見えない。それが見えないので、そこを改善していただくといいかなと思いつつながら、ABC 評価を見ていた。

事務局：来年度に入れば、令和2年度図書館評価を策定するので、策定の際にはご意見の内容を十分考慮したい。

委員：これで予算を削られたりするのとは何か違うのではないかと、今の状況であれば余計にそう思う。

委員：コロナの影響で団体貸出も減っているという状況で、頑張らないといけないというとおかしいが、工夫しなければならぬのだが、文科省の方からGIGAスクール構想というので、一人1台端末を高松は小学校、中学校全員手に入れているので、4月から一人一人タブレットを持って、家でも利用するとなると、今まで触ってなかった子供達がデジタルの方の情報を得やすくなって、ますます紙をめくって本を読むというのが少なくなるのではないかと心配している。来年度8000冊とされているのが、子供達が来館せずにタブレットで何かできるのではないかと、紙よりもそういうものが便利だなということで、ちょっと落ち込むのではないかと。また戻ってくると思うが、そういった心配があるので、YouTubeで発信するとか、デジタルの方で、こんなイベントしているよ、楽しいよと発信してもらえば、子供達の方から図書館にアクセスしてどんなことをやっているのか調べるのは、なかなか難しいと思うので、チラシも配っていただいているが、子供達がデジタルの方でそういった情報が得られるような形になると良い。そういうのを出して頂けたら有難い。

委員：子供の学習環境がこれから変わるので、確かにそこに目を向けないといけないというのはあるかもしれない。

委員：サービスの満足度のところで、アンケートで満足度が88%で、数値目標の90%をわずかに達成できてきないという話であったが、アンケートに、蔵書について、読みたい本がないとの回答があるが、読みたい本の希望があったとしてそれをどこまで叶える必要があるか、蔵書の数が少ないなどとても言えないし、自分の読みたい本がないという人がいたとしても多分問題にならないと思うが、カウンターの職員の声が大きいいというのは、これは何とかしなければいけない。何とかしなければならぬものと、何とかならない、しなくてかまわない問題があると思うので、もう少し細かく考えて、満足度を見た方がよい。単純に数値だけで88%だからダメということではないと思う。ここについては今年度こういう工夫をしたというのを示してもらいたいと思う。

#### 4. 閉会